

# 財政の役割



公共の学びを深めるところ Think...考えるコーナー(5分~10分) / Work...作業するコーナー(10分~20分)

## (i) 日本の財政制度

**財政とは**：国や地方公共団体が行う経済活動。

■ **予算**：政府が1年間における歳出と歳入の計画

- [<sup>1</sup>] 予算：国の基本的な活動のための予算
- [<sup>2</sup>] 予算：特定の事業・資金のための予算

これらの予算を審議・議決を経て、新年度から実施される予算を**本予算（当初予算）**、年度途中で追加や変更が必要になり、国会の議決を経て修正された予算を**補正予算**という。

※<sup>3</sup> ]：予算とは別に、国の資金を活用して独立行政法人などの投資や融資をおこなう = 「**第二の予算**」と呼ばれる

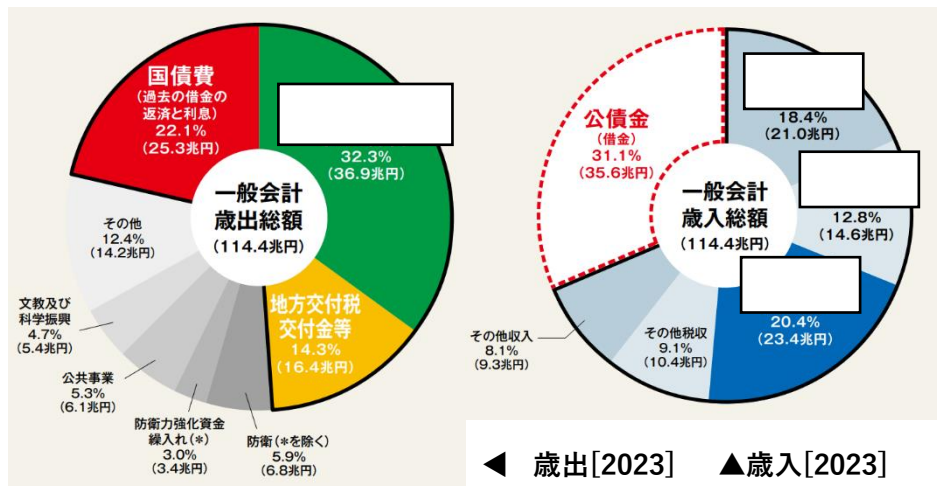
### +α 日本の一般会計予算

#### 歳出の point

- ① 社会保障費が全体の 1/3
- ② 国債費が 20%程度

#### 歳入の point

- ① 消費税、所得税が 2 TOP
- ② 1/3 程度借主に頼っている



## (ii) 財政の役割と財政政策

### ■ 財政の役割

- (1)[<sup>4</sup>] ]の調整機能  
= 公共財（道路・橋）や公共サービス（警察・国防）の提供
- (2)[<sup>5</sup>] ]の機能 = 所得の不平等を是正する。
  - ・ [<sup>6</sup>] ]の導入
  - ・ [<sup>7</sup>] ]の給付
- (3) **景気調整**の機能

↓ 所得税の累進課税制度

課税される所得	税率
195万円以下	5%
195万円超 330万円以下	10%
330万円超 695万円以下	20%
695万円超 900万円以下	23%
900万円超 1,800万円以下	33%
1,800万円超 4,000万円以下	40%
4,000万円超	45%

## ■ 財政による景気調整

・ 基本的な考え方

景気は、社会に出回るお金の量で調整する

好況時

お金がよく回っている状態

→ 過熱し過ぎないように、通貨を**吸収**

不況時

お金が回っていない状態

→ 経済が活発になるよう、通貨を**供給**

・ 財政による景気調整には、大きく分けて二種類の方法がある。

A 累進課税や社会保障によって自動的に景気を安定させる方法 = [8]

B 積極的・意図的な政策を行う方法 = [9]

### (A) ビルトイン・スタビライザーのしくみ

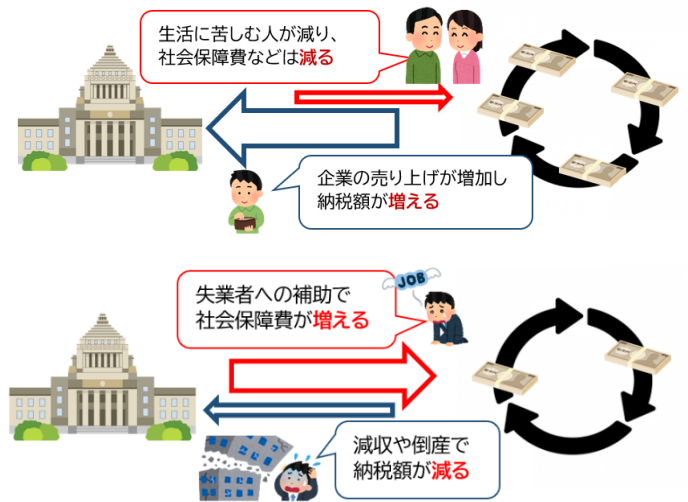
\* **好景気**の場合 ⇒ 社会に出回るお金を減らす必要性

- ・ 所得が増加 → 累進課税により支払う税金が増える
- ・ 生活困難者は減少 → 社会保障費が減る

\* **不景気**の場合 ⇒ 社会に出回るお金を増やす必要性

- ・ 所得の減少 → 累進課税により支払う税金が減る
- ・ 生活困難者の増加 → 社会保障費が増える

このように、好景気の場合は自然と通貨量を吸収し、  
不景気の場合は自然と通貨量を供給するしくみ



### (B) フィスカル・ポリシーのしくみ

\* **好景気**の場合 ⇒ 社会に出回るお金を減らさなければならない。

- ・ 意図的な.....の実施
- ・ 公共事業を.....にする

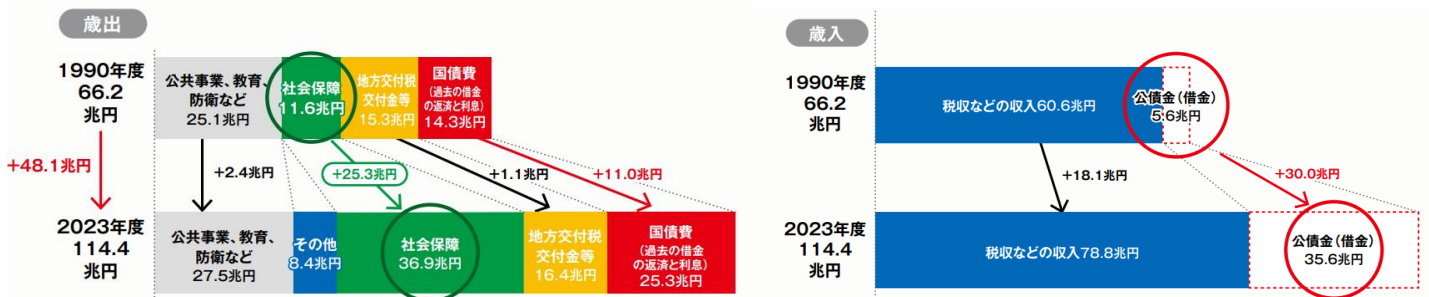
\* **不景気**の場合 ⇒ 社会に出回るお金を増やさなければならない。

- ・ 意図的な.....の実施
- ・ 公共事業を.....にする ⇒ 仕事や所得の増加へ繋がる

## (iii) 日本財政の現状

財務省資料より、1990年度と2023年度との比較をしてみよう。[10]の急増により  
予算規模は2倍近くまで増えており、税収で賄えない分を[11]に依存している状態である。  
少子高齢化の進行が一因だが、これは今後もさらに速いスピードで進んでいく。

みんなが親になる頃、また大切に育てた子どもが生きていく社会がどんな状態になっているかは、  
私たちの努力にかかっている。今後どのように経済政策を進めていけばよいかに関する議論は、  
また次回改めて整理することにしましょう。



# 財政の役割



公共の学びを深めるところ Think...考えるコーナー(5分~10分) / Work...作業するコーナー(10分~20分)

## (i) 日本の財政制度

**財政とは**：国や地方公共団体が行う経済活動。

■ **予算**：政府が1年間における歳出と歳入の計画

- [<sup>1</sup> **一般会計**] 予算：国の基本的な活動のための予算
- [<sup>2</sup> **特別会計**] 予算：特定の事業・資金のための予算

これらの予算を審議・議決を経て、新年度から実施される予算を**本予算(当初予算)**、年度途中で追加や変更が必要になり、国会の議決を経て修正された予算を**補正予算**という。

※<sup>3</sup> **財政投融资** ]：予算とは別に、国の資金を活用して独立行政法人などの投資や融資をおこなう = 「**第二の予算**」と呼ばれる

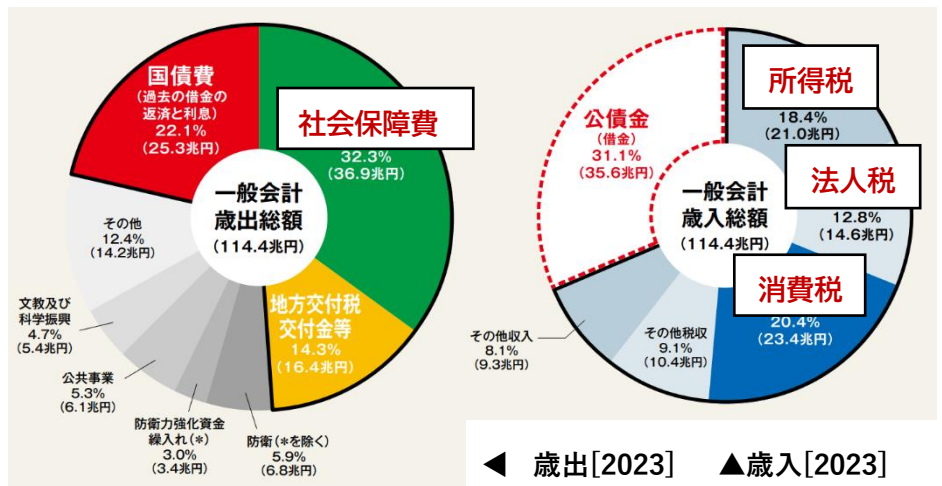
### +α 日本の一般会計予算

#### 歳出の point

- ① 社会保障費が全体の 1/3
- ② 国債費が 20% 程度

#### 歳入の point

- ① 消費税、所得税が 2 TOP
- ② 1/3 程度借金に頼っている



## (ii) 財政の役割と財政政策

### ■ 財政の役割

- (1)<sup>4</sup> **資源配分** ]の調整機能  
= 公共財 (道路・橋) や公共サービス (警察・国防) の提供
- (2)<sup>5</sup> **所得再分配** ]の機能 = 所得の不平等を是正する。
  - ・ <sup>6</sup> **累進課税制度** ]の導入
  - ・ <sup>7</sup> **社会保障費** ]の給付
- (3) **景気調整**の機能

↓ 所得税の累進課税制度

課税される所得	税率
195万円以下	5%
195万円超 330万円以下	10%
330万円超 695万円以下	20%
695万円超 900万円以下	23%
900万円超 1,800万円以下	33%
1,800万円超 4,000万円以下	40%
4,000万円超	45%

## ■ 財政による景気調整

・基本的な考え方

景気は、社会に出回るお金の量で調整する

**好況時**

お金がよく回っている状態

→過熱し過ぎないように、通貨を**吸収**

**不況時**

お金が回っていない状態

→経済が活発になるよう、通貨を**供給**

・財政による景気調整には、大きく分けて二種類の方法がある。

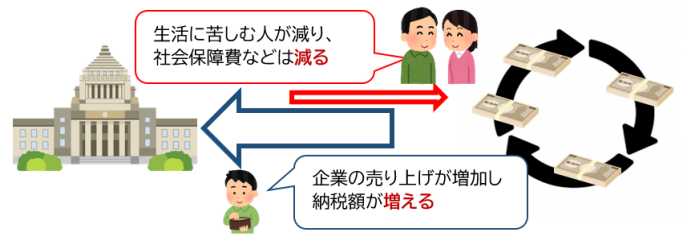
A 累進課税や社会保障によって**自動的**に景気を安定させる方法=[<sup>8</sup> **ビルトイン・スタビライザー** ]

B 積極的・意図的な政策を行う方法=[<sup>9</sup> **フィスカル・ポリシー** ]

### (A) ビルトイン・スタビライザーのしくみ

\* **好景気**の場合⇒社会に出回るお金を減らす必要性

- ・所得が増加→累進課税により支払う税金が増える
- ・生活困難者は減少→社会保障費が減る



\* **不景気**の場合⇒社会に出回るお金を増やす必要性

- ・所得の減少→累進課税により支払う税金が減る
- ・生活困難者の増加→社会保障費が増える



このように、好景気の場合は自然と通貨量を吸収し、不景気の場合は自然と通貨量を供給するしくみ

### (B) フィスカル・ポリシーのしくみ

\* **好景気**の場合 ⇒ 社会に出回るお金を減らさなければならない。

- ・意図的な **増税** の実施
- ・公共事業を **控えめ** にする

\* **不景気**の場合 ⇒ 社会に出回るお金を増やさなければならない。

- ・意図的な **減税** の実施
- ・公共事業を **活発** にする⇒仕事や所得の増加

## (iii) 日本財政の現状

財務省資料より、1990年度と2023年度との比較をしてみよう。[<sup>10</sup> **社会保障費** ]の急増により予算規模は2倍近くまで増えており、税収で賄えない分を[<sup>11</sup> **公債金** ]に依存している状態である。少子高齢化の進行が一因だが、これは今後もさらに速いスピードで進んでいく。

みんなが親になる頃、また大切に育てた子どもが生きていく社会がどんな状態になっているかは、私たちの努力にかかっている。今後どのように経済政策を進めていけばよいかに関する議論は、また次回改めて整理することにしましょう。

